

科目名			担当者	
国語表現			遠藤 花菜子	非常勤
配当年次	授業形式	授業時間	単位	実務経験等
1年次・前期	講義	30時間	必修 2単位	無

授業の目的と到達目標	<p>授業や実習等、学校生活のあらゆる場面において、「文章を書く力」「話す力」は必須となる。また、自己を表現すること、そして、相手の話を理解することは、すべての教養の基礎となる。以上のことを踏まえ、本授業では文章の基礎力を高めることを目的とする。</p> <p>「読みやすい字、正しい漢字が書けること・自分の考えをしっかりと持つこと・わかりやすい文章で、自分の考えを伝えることが出来るようになること」を、到達目標とする。お礼状や履歴書などの書き方等にも慣れ、より良い社会人となるための基礎力を身に付ける。</p>
授業の概要 達成課題	<p>本科目では、実用的な文章を書くための基礎力を身に付けることができる。丁寧な字を書くことを意識し、漢字力・語彙力を高めるための反復練習・小テストを行う。小テストでは、定められた合格点に達することが求められる。また、目的に応じた的確な文章を書く力を身につけるために、実際に授業内で手紙文やハガキ、レポート等の作成を繰り返し、国語常識を理解できる。授業内に正確な文字で適切な文章を作成することが求められる。</p>
【各回のテーマ・内容・授業方法】	
<p>第1週 ガイダンス…ビジネスマナーの基本と就職活動につながる国語の授業</p> <p>第2週 敬語：丁寧語・謙譲語・尊敬語の違い…実践</p> <p>第3週 敬語：丁寧語・謙譲語・尊敬語の違い…実践</p> <p>第4週 敬語：小テスト+総復習</p> <p>第5週 漢字：ビジネス用語・一般教養</p> <p>第6週 小論文：プロセス1. 概要～読解力の向上…要約分の作成</p> <p>第7週 小論文：プロセス2. 概要～読解力の向上…感想文の作成</p> <p>第8週 小論文：プロセス3. 概要～読解力の向上…論文の作成</p> <p>第9週 就活関連：プロセス1. 概要～対策と傾向・スケジュールの確認～</p> <p>第10週 就活関連：プロセス2. 自己分析の方法</p> <p>第11週 就活関連：プロセス3. エントリーシートの書き方</p> <p>第12週 ビジネスメール・お礼状・報告書関連 (PC版・手書き両方)</p> <p>第13週 エントリーシート・履歴書の書き方</p> <p>第14週 SPI 概要 対策と傾向</p> <p>第15週 ガイダンス(就活生としての国語のマナー) 2年生への準備</p>	
成績評価方法	<p>授業への取り組み、及び、提出物による評価 (30%)</p> <p>小テストによる評価 (30%)</p> <p>定期試験による評価 (40%)</p>
教科書	
参考書	
備考	

科目名			担当者	
CAD入門			三浦 由貴	常勤
配当年次	授業形式	授業時間	単位	実務経験等
1年次・前期	演習	45時間	必修1.5単位	無

授業の目的と到達目標	<p>建築の業界で必須となるCAD操作の技術を身につけることを目標とする。</p> <p>アプリケーションはJw_cadを使用する。</p> <ul style="list-style-type: none"> 基本操作を修得することができる。 マンションの基本図面を作成することができる。
授業の概要 達成課題	<p>教科書をもとに進めていく。</p> <p>各個人の進行状況などを把握し、次のステップに進めることとする。</p>
<p>【各回のテーマ・内容・授業方法】</p> <p>第1週 CADと建築製図に関して</p> <p>第2週 Jw_cad 基本操作（コマンド演習）</p> <p>第3週 Jw_cad 基本操作（コマンド演習）</p> <p>第4週 Jw_cad 基本操作（コマンド演習）</p> <p>第5週 配置図兼平面図の作図（各種条件の設定）</p> <p>第6週 木造住宅の平面図の作図（基準線、柱、開口部）</p> <p>第7週 木造住宅の平面図の作図（壁、家具、室名）</p> <p>第8週 木造住宅の平面図の作図（敷地、寸法）</p> <p>第9週 木造住宅の屋根伏図の作図（屋根の作図）</p> <p>第10週 木造住宅の屋根伏図の作図（寸法）</p> <p>第11週 木造住宅の断面図の作図（基準線、断面線、外形線）</p> <p>第12週 木造住宅の断面図の作図（基準線、断面線、外形線）</p> <p>第13週 木造住宅の立面図の作図（西立面図）</p> <p>第14週 木造住宅の立面図の作図（南立面図）</p> <p>第15週 木造住宅の立面図の印刷</p>	
成績評価方法	課題提出作品にて評価する。
教科書	高校生から始める Jw_cad 建築製図入門（エクスマレッジ）
参考書	プリントを配布することもあります。
備考	パソコンの不具合については速やかに申し出てください。 操作方法に関して不明な点は質問してください。

科目名			担当者	
CAD設計 I			早坂 直人	常勤
配当年次	授業形式	授業時間	単位	実務経験等
1年次・後期	演習	45時間	必修 1.5単位	無

授業の目的と到達目標	2次元汎用CADにおけるプレゼンテーションボードの作成を目標とする。 ・アプリケーションはJw_cadを使用する。 ソリッド図形の着色方法を学ぶ。 画像取り込み方法を学ぶ。 長文の編集方法を学ぶ。
授業の概要達成課題	まず、立面図においてソリッド図形にての着色を説明する。ソリッド図形とレイヤにおける表示の上下関係を説明する。次に、JPG画像の取り込み方法を説明し、画像の縮小、拡大を説明する。長文の編集方法、他アプリケーションからの文字コピーも説明する。

【各回のテーマ・内容・授業方法】

- 第1週 Jw_cadの応用技術に関する説明
 第2週 画像の取込
 第3週 画像のプロット
 第4週 ソリッド図形による平面図への着色
 第5週 ソリッド図形による平面図への着色、レイヤの上下関係
 第6週 ソリッド図形による平面図への着色、陰影の表現
 第7週 写真画像に対する、プレゼンテーションボードの作成
 第8週 写真画像に対する、プレゼンテーションボードの作成
 第9週 写真画像に対する、プレゼンテーションボードの作成
 第10週 写真画像に対する、プレゼンテーションボードの作成
 第11週 写真画像に対する、プレゼンテーションボードの作成
 第12週 発表①
 第13週 発表②
 第14週 発表③
 第15週 修正、提出

成績評価方法	課題提出作品にて評価する。
教科書	高校生から始めるJw_cad 建築製図入門 (エクスマレッジ)
参考書	プリントを配布
備考	パソコンの不具合については速やかに申し出てください。 操作方法に関して不明な点は質問してください。

科目名			担当者	
CAD設計Ⅱ			早坂 直人	常勤
配当年次	授業形式	授業時間	単位	実務経験等
2年次・前期	演習	45時間	必修 1.5単位	無

授業の目的と到達目標	CAD 入門・CAD 演習Ⅰ・3次元CAD と合わせた4科目の合計60週を通してCAD 操作の訓練を行う。 習得度合いに応じて練習できるステップアップ・プログラム。 印刷図面からCAD データを制作する。
授業の概要 達成課題	印刷図面から各部寸法を読み取り、平面図、断面図、立面図、かなばかり図をCAD データとして制作する。
【各回のテーマ・内容・授業方法】	
<p>第1週 ガイダンス jw-cad 操作の復習</p> <p>第2週 鉄筋コンクリート造 1階平面図①</p> <p>第3週 鉄筋コンクリート造 1階平面図②</p> <p>第4週 鉄筋コンクリート造 2階平面図①</p> <p>第5週 鉄筋コンクリート造 2階平面図②</p> <p>第6週 鉄筋コンクリート造 断面図①</p> <p>第7週 鉄筋コンクリート造 断面図②</p> <p>第8週 鉄筋コンクリート造 立面図</p> <p>第9週 鉄筋コンクリート造 かなばかり図</p> <p>第10週 木造 配置図 1階平面図①</p> <p>第11週 木造 1階平面図②</p> <p>第12週 木造 2階平面図</p> <p>第13週 木造 断面図</p> <p>第14週 木造 立面図</p> <p>第15週 木造 かなばかり図</p>	
成績評価方法	提出課題にて評価する。
教科書	
参考書	
備考	完成データを教員用パソコンの指定されたフォルダに提出すること。 CAD操作はもちろん、データの取り扱いについても評価をします。

科目名			担当者	
3次元CAD			早坂 直人	常勤
配当年次	授業形式	授業時間	単位	実務経験等
2年次・後期	演習	45時間	必修 1.5単位	無

授業の目的と到達目標	3次元CADアプリケーションの操作方法を学び、2次元図面から3次元データを作成する技術を習得する。 3次元データを用いたプレゼンテーションテクニックを習得する。
授業の概要 達成課題	SketchUpによる3次元データの作成方法を身につける。 住宅の各図面から3次元データを作成する力を身につける。
【各回のテーマ・内容・授業方法】	
第1週 SketchUpの操作① 第2週 SketchUpの操作② 第3週 SketchUpの操作③ 第4週 3次元モデル作成(外観モデル)(RC造)① 第5週 3次元モデル作成(外観モデル)(RC造)② 第6週 3次元モデル作成(外観モデル)(RC造)③ 第7週 3次元モデル作成(外観モデル)プレゼンテーションデータ作成 第8週 3次元モデル作成(内観、外観、両対応モデル)(木造)① 第9週 3次元モデル作成(内観、外観、両対応モデル)(木造)② 第10週 3次元モデル作成(内観、外観、両対応モデル)(木造)③ 第11週 3次元モデル作成(内観、外観、両対応モデル)(木造)④ 第12週 3次元モデル作成(内観、外観、両対応モデル)(木造)⑤ 第13週 3次元モデル作成(内観、外観、両対応モデル)プレゼンテーションデータ作成 第14週 3次元モデルを用いたプレゼンテーションデータの作成① 第15週 3次元モデルを用いたプレゼンテーションデータの作成②	
成績評価方法	提出課題にて評価する。
教科書	JW-CAD 建築プレゼン入門 (エクスマレッジ)
参考書	
備考	完成データを教員用パソコンの指定されたフォルダに提出すること。 CAD操作はもちろん、データの取り扱いについても評価をします。

科目名			担当者	
環境工学 I			早坂 直人	常勤
配当年次	授業形式	授業時間	単位	実務経験等
1 年次・前期	講義	30 時間	必修 2 単位	無

授業の目的と到達目標	人間が快適かつ健康的に生活するには、建築物にどのような工夫が必要となるのかを、自然環境を通して考察する力を身につける。
授業の概要 達成課題	快適な居住環境を形成する要素として、室内外の気候、温熱環境、日照を理解する。 建築における伝熱に関して学び、熱損失と日射について学習する。
【各回のテーマ・内容・授業方法】	
第 1 週 環境工学ガイダンス 第 2 週 室内気候 1 第 3 週 室内気候 2 第 4 週 戸外気候 1 第 5 週 戸外気候 2 第 6 週 室内と戸外の気候テスト 第 7 週 伝熱と結露 1 第 8 週 伝熱と結露 2 第 9 週 伝熱と結露テスト 第 10 週 日照 1 第 11 週 日照 2 第 12 週 日照テスト 第 13 週 採光 1 第 14 週 採光 2 第 15 週 採光テスト	
成績評価方法	各章末テスト（40%）と期末試験（60%）にて評価する。
教科書	初めての建築環境（学芸出版社）
参考書	環境工学演習用教材（東北文化学園専門学校）
備考	

科目名			担当者	
環境工学Ⅱ			早坂 直人	常勤
配当年次	授業形式	授業時間	単位	実務経験等
1 年次・後期	講義	30 時間	必修 2 単位	無

授業の目的と到達目標	快適な居住環境を形成する要素として、照明・換気・音響・色彩と人体の影響、調和について考察し、適切な室内環境を理解、計画できる知識を身につける。
授業の概要 達成課題	快適な居住環境を形成する要素として、日照環境を理解する。 換気の必要性と換気計画について理解する。 音響の基礎知識と物理的影響、心理的影響を理解する。 色彩の基礎知識と色彩が人間に及ぼす心理効果を学ぶ。
【各回のテーマ・内容・授業方法】	
第 1 週 照明 1 (目の働き) 第 2 週 照明 2 (照明の方法 好ましい照度) 第 3 週 照明 3 (照明計画) 第 4 週 照明テスト 第 5 週 換気と通気 1 (必要換気量) 第 6 週 換気と通気 2 (人工換気 自然換気) 第 7 週 換気と通気テスト 第 8 週 音響 1 (音波の三要素) 第 9 週 音響 2 (音圧と音圧レベル) 第 10 週 音響 3 (室内の音響問題) 第 11 週 音響テスト 第 12 週 色彩 1 (色彩と心理) 第 13 週 色彩 2 (配色効果に影響する現象) 第 14 週 色彩 3 (色彩調整) 第 15 週 色彩テスト	
成績評価方法	各章末テスト (40%) と期末試験 (60%) にて評価する。
教科書	初めての建築環境 (学芸出版社)
参考書	環境工学演習用教材 (東北文化学園専門学校)
備考	

科目名			担当者	
建築ビジネス			中村 通	非常勤
配当年次	授業形式	授業時間	単位	実務経験等
2年次・後期	講義	30時間	必修 2単位	無

授業の目的と到達目標	<p>営業について知り、理解できるようになることを目的とする。</p> <p>将来のビジネスプランをつくることができる。</p> <p>営業技術の会話を理解できる。</p> <p>販売技術の契約に関して理解できる。</p> <p>広告技術のプレゼンに関して理解できる。</p>
授業の概要達成課題	<p>将来、建築あるいは他業界に仕事を求めても自立できるように、経営、営業、会話、広告の基本と応用（ワークショップ-発表会）を実施。</p>
【各回のテーマ・内容・授業方法】	
<p>第1週 ガイダンス（営業の基本と心構え）</p> <p>第2週 経営技術【ビジネスプランをつくる①】</p> <p>第3週 経営技術【ビジネスプランをつくる②】</p> <p>第4週 営業技術【営業会話の基本】</p> <p>第5週 営業技術【営業会話の攻撃法】</p> <p>第6週 営業技術【受注活動の基本（0から仕事を取る）】</p> <p>第7週 営業技術【受注活動の応用（集客から増客へ）】</p> <p>第8週 販売技術【マスコミとクチコミの技術】</p> <p>第9週 販売技術【消費者心理と販売促進】（契約までのアプローチ法）</p> <p>第10週 まとめ【第1週～第9週】</p> <p>第11週 広告技術【建築図面のプレゼン技術①】</p> <p>第12週 広告技術【建築図面のプレゼン技術②】</p> <p>第13週 広告技術【会社案内・販売チラシの作り方①】</p> <p>第14週 広告技術【会社案内・販売チラシの作り方②】</p> <p>第15週 まとめ【最終回】発表会を中心に「自活」トレーニングと注意点</p>	
成績評価方法	レポートで評価する。
教科書	授業で配布する。
参考書	
備考	

科目名			担当者	
建築数学			佐竹 正行	常勤
配当年次	授業形式	授業時間	単位	実務経験等
1年次・後期	講義	30時間	必修 2単位	無

授業の目的と到達目標	・建築を学ぶ上で重要となる数学の基礎学力を身に付け、建築のさまざまな分野における計算問題に活用できるようにする。
授業の概要 達成課題	・建築の設計実務などに沿った計算の確認、問題を実施する。
【各回のテーマ・内容・授業方法】	
第1週 インTRODクシヨN 第2週 三角スケールの読み方と縮尺について 第3週 単位などの基礎知識① 第4週 単位などの基礎知識② 第5週 平均と基本的な四則計算① 第6週 平均と基本的な四則計算② 第7週 階段の設計① 第8週 階段の設計② 第9週 分数を含んだ計算（割合）① 第10週 分数を含んだ計算（割合）② 第11週 三角関数（建物の高さ、屋根の面積） 第12週 三角関数（敷地の面積を求める、水平照度を求める） 第13週 ベクトルの性質、合成 第14週 ベクトルの作図と角度 第15週 まとめ	
成績評価方法	期末試験にて評価する。
教科書	図説やさしい建築数学
参考書	授業中にプリントを配布する。
備考	

科目名			担当者	
建築計画 I			海子 揮一	非常勤
配当年次	授業形式	授業時間	単位	実務経験等
1 年次・前期	講義	30 時間	必修 2 単位	有

授業の目的と到達目標	<p>日常生活の中で最も身近な建築物である住宅を通して、建物を計画する上で必要な基本的知識について理解する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 歴史、風土からみる日本の住まいの特徴を説明できる。 ・ 戸建て住宅及び集合住宅に関する基本的事項を説明できる。 ・ 現在の住宅事情を把握し、今後求められる住まいの形を提案できる。 <p>※建築設計事務所を開設し、建築設計（建築計画）の経験のある一級建築士の教員が授業を担当する。</p>
授業の概要 達成課題	<p>まず、日本の住まいの歴史、風土を説明したあと、現在にも共通する日本の住まいの特徴について説明する。</p> <p>次に、戸建て住宅及び集合住宅に関する基本的知識について例を挙げながら具体的に説明する。</p> <p>また、現在の家族構成やライフスタイル等を分析し、今後の住まいについて解説しながらまとめを行う。</p>
【各回のテーマ・内容・授業方法】	
<p>第 1 週 ガイダンス</p> <p>第 2 週 日本の住まいの特徴①</p> <p>第 3 週 日本の住まいの特徴②</p> <p>第 4 週 戸建て住宅① 配置計画、間取りの型とその特徴</p> <p>第 5 週 戸建て住宅② 台所の型とその特徴、諸室の特徴</p> <p>第 6 週 戸建て住宅③ 二世帯住宅の計画、高齢者対応設計</p> <p>第 7 週 戸建て住宅④ 規模計画、住宅の各部分に関わる法規</p> <p>第 8 週 戸建て住宅⑤ 単元テスト（1）</p> <p>第 9 週 集合住宅① 団地計画、歩行者と車の計画</p> <p>第 10 週 集合住宅② 集合住宅の分類（階数・通路形式）とその特徴</p> <p>第 11 週 集合住宅③ 新しい集合住宅の計画、参加型の住まいづくり</p> <p>第 12 週 集合住宅④ 単元テスト（2）</p> <p>第 13 週 集合住宅⑤ 演習</p> <p>第 14 週 居住施設計画まとめ① 住生活の現状とこれからの住まい</p> <p>第 15 週 居住施設計画まとめ② 細部計画</p>	
成績評価方法	<ul style="list-style-type: none"> ・ 単元テスト（1）（2）の合計（40%） ・ 期末テスト（60%）
教科書	『図解 やさしい建築計画』／学芸出版社
参考書	プリントを配布することもあります。
備考	講義スケジュールを確認し、講義内容の範囲は教科書を一読してから授業に臨んでください。欠席した際は、次回授業までに担当教員からプリント等を受け取り、自宅学習してください。

科目名			担当者	
建築計画Ⅱ			海子 揮一	非常勤
配当年次	授業形式	授業時間	単位	実務経験等
1 年次・後期	講義	30 時間	必修 2 単位	有

授業の目的と到達目標	<ul style="list-style-type: none"> 公共施設（学校、美術館等）について使用方法を検証し、計画上必要とされる基本的事項について説明できる。 商業施設（事務所建築、店舗等）について使用方法を検証し、計画上必要とされる基本的事項について説明できる。 都市構造についての基本事項を把握し、利便性と環境面に配慮した計画を提案できる。 ※建築設計事務所を開設し、建築設計（建築計画）の経験のある一級建築士の教員が授業を担当する。
授業の概要 達成課題	<p>まず、公共施設についてそれぞれの特徴を分析し、実際の例を挙げながら計画上の基本事項を説明する。</p> <p>次に、商業施設についてそれぞれの特徴を分析し、実際の例を挙げながら計画上の基本事項を説明する。</p> <p>また、都市構造について基本事項を説明し、都市が抱える問題等を分析する。その上で、今後の都市計画について解説しながらまとめを行う。</p>
【各回のテーマ・内容・授業方法】	
<p>第 1 週 学校教育施設① 幼稚園、保育所</p> <p>第 2 週 学校教育施設② 小学校、中学校（1）</p> <p>第 3 週 学校教育施設③ 小学校、中学校（2）</p> <p>第 4 週 社会教育施設① 図書館</p> <p>第 5 週 社会教育施設② 美術館</p> <p>第 6 週 社会教育施設③ コミュニティセンター</p> <p>第 7 週 医療福祉施設① 病院</p> <p>第 8 週 医療福祉施設② 高齢者施設</p> <p>第 9 週 まとめ 単元テスト（1）</p> <p>第 10 週 商業施設① 事務所建築（1）</p> <p>第 11 週 商業施設② 事務所建築（2）、駐車場</p> <p>第 12 週 商業施設③ 劇場、音楽ホール</p> <p>第 13 週 商業施設④ 店舗、ホテル</p> <p>第 14 週 まとめ 単元テスト（2）</p> <p>第 15 週 都市計画</p>	
成績評価方法	<ul style="list-style-type: none"> 単元テスト（1）（2）の合計（40%） 期末テスト（60%）
教科書	『図解 やさしい建築計画』／学芸出版社
参考書	プリントを配布することもあります。
備考	講義スケジュールを確認し、講義内容の範囲は教科書を一読してから授業に臨んでください。欠席した際は、次回授業までに担当教員からプリント等を受け取り、自宅学習してください。

科目名			担当者	
建築構造 I			海子 揮一	非常勤
配当年次	授業形式	授業時間	単位	実務経験等
1 年次・前期	講義	30 時間	必修 2 単位	有

授業の目的と到達目標	建物の構造を理解する。 建物の成り立ちを説明できる。 木質構造の概要を説明できる。 建物の内部、外部仕上げを説明できる。 ※建築設計事務所を開設し、建築設計、設計監理の経験のある一級建築士の教員が授業を担当する。
授業の概要達成課題	まず、建築物成り立ちを学び、地質調査の各種方法、基礎構造の違いについて学ぶ。 次に、木質構造の成り立ち、各骨組みの違いによる名称を学び、木質構造を理解する。 更に、内部仕上げ、外部仕上げを学び、木質建築の成り立ちを理解する。
【各回のテーマ・内容・授業方法】	
第 1 週 ガイダンス 建物にはたたく力と構造計画 第 2 週 木構造 木材の特徴、木構造の特徴 第 3 週 木構造 基礎・地業 第 4 週 木構造 軸組（土台、柱、横架材、筋かい） 第 5 週 木構造 軸組（壁、各接合部の納まり） 第 6 週 木構造 柱頭・柱脚金物の設置基準、耐力壁の壁量計算 第 7 週 木構造 耐力壁の配置 第 8 週 木構造 小屋組 第 9 週 木構造 床組 第 10 週 木構造 階段、接合部 第 11 週 木構造 枠組壁工法 第 12 週 仕上げ 屋根 第 13 週 仕上げ 壁 第 14 週 仕上げ 床、天井 第 15 週 仕上げ 開口部、階段、和室	
成績評価方法	期末試験にて評価する。
教科書	「図説 やさしい建築一般構造」学芸出版社
参考書	「構造用教材」日本建築学会、「ビジュアルハンドブック 必携建築資料」実教出版
備考	私語厳禁、携帯電話はマナーモードにする、教員入室前に着席、授業で使用する教科書等は授業前に準備が完了するなど、大人の常識、社会の常識で授業に臨むこと。

科目名			担当者	
建築構造Ⅱ			海子 揮一	非常勤
配当年次	授業形式	授業時間	単位	実務経験等
1年次・後期	講義	30時間	必修 2単位	有

授業の目的と到達目標	建物の構造を理解する。 建物の成り立ちを説明できる。 鉄筋コンクリート構造の概要を説明できる。 鉄骨構造の概要を説明できる。 鉄骨鉄筋コンクリート構造の概要を説明できる。 壁式鉄筋コンクリート構造の概要を説明できる。 ※建築設計事務所を開設し、建築設計、設計監理の経験のある一級建築士の教員が授業を担当する。
授業の概要 達成課題	まず、鉄筋コンクリート構造を学び、木質構造とは異なる重量建築物の特性を学び、木質構造との相違点について学ぶ。 次に、次に鉄骨構造を学び鉄筋コンクリートとは異なる、軽量で韌性に富む構造から導き出される空間性を学ぶ。 更に、鉄骨鉄筋コンクリート構造、壁式鉄筋コンクリート構造を学び、他種類の構造から、空間有効性を学ぶ。
【各回のテーマ・内容・授業方法】	
第1週 鉄筋コンクリート構造 コンクリートと鉄筋 第2週 鉄筋コンクリート構造 特徴、原理 第3週 鉄筋コンクリート構造 構造形式、配筋計画 第4週 鉄筋コンクリート構造 基礎 第5週 鉄筋コンクリート構造 各部の構造（梁、柱） 第6週 鉄筋コンクリート構造 各部の構造（スラブ、耐力壁）、階段 第7週 防水の種類 第8週 壁式鉄筋コンクリート構造 第9週 鉄骨造 鋼材の特徴 第10週 鉄骨造 鉄骨造の特徴、接合（リベット、ボルト、高力ボルト） 第11週 鉄骨造 接合（溶接、共通） 第12週 鉄骨造 部材の設計、各部の構造（梁、柱、柱と梁の仕口） 第13週 鉄骨造 各部の構造（筋かい、柱脚）、床板、階段、耐火被覆 第14週 鉄骨鉄筋コンクリート造、補強コンクリートブロック造 第15週 プレストレストコンクリート造	
成績評価方法	期末試験にて評価する。
教科書	「図説 やさしい建築一般構造」学芸出版社
参考書	「構造用教材」日本建築学会、「ビジュアルハンドブック 必携建築資料」実教出版
備考	私語厳禁、携帯電話はマナーモードにする、教員入室前に着席、授業で使用する教科書等は授業前に準備が完了するなど、大人の常識、社会の常識で授業に臨むこと。

科目名			担当者	
建築材料 I			川村 広則	非常勤
配当年次	授業形式	授業時間	単位	実務経験等
1 年次・前期	講義	30 時間	必修 2 単位	無

授業の目的と到達目標	建築材料としての木材、セメント、コンクリート及び金属について、性質、種類、製造方法及び耐久性などに関して理解することを目的とする。また、これらの材料が建築物の構成部材としてどのようにかかわっているかを理解する。
授業の概要 達成課題	建築材料としての木材の種類、性質、加工方法、保護方法及び木質系材料について説明する。 セメントの種類と製法、性質について説明する。 コンクリートの構成材料、性質、耐久性及び各種コンクリートの特徴について説明する。 コンクリートの調合設計方法と強度特性について説明する。 建築材料として使用される金属の種類、性質、用途、強度について説明する。
【各回のテーマ・内容・授業方法】	
第 1 週	オリエンテーション（講義で解説する建築材料の歴史と発達、分類と性質や規格について）
第 2 週	木材の種類、分類と成分
第 3 週	木材の強度と組織
第 4 週	木材演習問題
第 5 週	木材演習問題解説
第 6 週	セメントの原料と種類
第 7 週	セメントの性質、コンクリートの材料、良いコンクリートについて
第 8 週	コンクリートの種類と用途
第 9 週	コンクリート調合設計方法
第 10 週	セメント・コンクリート演習問題
第 11 週	セメント・コンクリート演習問題解説
第 12 週	金属の鋼とは、鋼の種類と用途
第 13 週	非鉄金属の種類と性質
第 14 週	金属演習問題解説
第 15 週	金属演習問題解説
成績評価方法	授業時間内の演習（40%）、期末試験（60%）で評価する。
教科書	新編 建築材料（市ヶ谷出版社）
参考書	プリントを配布することもあります。
備考	授業中の私語を禁じる。携帯電話は使用しないこと。授業中の質問は大歓迎。 定期的に演習問題を行いますので復習が大切になります。

科目名			担当者	
建築材料Ⅱ			川村 広則	非常勤
配当年次	授業形式	授業時間	単位	実務経験等
1年次・後期	講義	30時間	必修 2単位	無

授業の目的と到達目標	建築材料としての石材、ガラス、セラミックス、石灰・せっこう系材料、プラスチック、塗料、防水材料、接着剤及び防火・耐火材料に関して、性質、種類、製造方法及び耐久性などについて理解することを目的とする。また、これらの材料が建築物の構成部材としてどのようにかかわっているかを理解する。
授業の概要 達成課題	建築材料としての石材の種類、性質などについて説明する。 ガラスの製法と種類、各種ガラス製品の特徴について説明する。 セラミックスの中でも特に粘土、タイル、れんがについて種類と特徴を説明する。 石灰・せっこう系材料及びプラスチックの製法、性質、製品及び用途について説明する。 塗料の分類と特徴、各種仕上げ塗材について説明する。 防水材料、接着剤及び防火・耐火材料について種類、性質、特徴について説明する
【各回のテーマ・内容・授業方法】	
第1週	オリエンテーション（講義で解説する建築材料の歴史と発達、分類と性質や規格について）
第2週	石材の分類及び組織、性質
第3週	ガラスの種類、性質
第4週	セラミックスの用途、性質
第5週	石灰・せっこう系材料、プラスチックの種類、用途、性質
第6週	石材、ガラス、セラミックス、石灰・せっこう系材料の演習問題
第7週	石材、ガラス、セラミックス、石灰・せっこう系材料の演習問題解説
第8週	塗料、仕上げ塗材の種類、用途、性質 1
第9週	塗料、仕上げ塗材の種類、用途、性質 2
第10週	防水・耐火材料の種類、用途、性質
第11週	接着剤の種類、用途、性質
第12週	防火・耐火材料の種類、用途、性質。その他の材料
第13週	塗料、防水材料、接着剤、防火・耐火材料の演習問題
第14週	塗料、防水材料、接着剤、防火・耐火材料の演習問題解説
第15週	建築材料の総まとめ
成績評価方法	授業時間内の演習（40%）、期末試験（60%）で評価する。
教科書	新編 建築材料（市ヶ谷出版社）
参考書	プリントを配布することもあります。
備考	授業中の私語を禁じる。携帯電話は使用しないこと。授業中の質問は大歓迎。 定期的に演習問題を行いますので復習が大切になります。

科目名			担当者	
建築史 I			増田 学身	常勤
配当年次	授業形式	授業時間	単位	実務経験等
1年次・前期	講義	30時間	必修 2単位	無

授業の目的と到達目標	人間の手による極めて大きな造形である「建築」が歴史の中でどのように変化してきたかを学習しながら、建築物造形の手法と表現について学んでいく。 また、人類の歴史に重要な役割を担った有名な建築物について深く考察することによって、建築の本質を広く考えていく。
授業の概要 達成課題	<ul style="list-style-type: none"> ・建築の構造とデザインの関係性について理解している。 ・国際建築様式を中心とする近代の有名建築物について、十分な知識を持つ。

【各回のテーマ・内容・授業方法】

- 第1週 受講ガイド、「歴史を学ぶということ」
 第2週 姫路城再建の物語「木造木組の歴史」
 第3週 飛鳥時代、奈良時代
 第4週 平安時代
 第5週 鎌倉時代
 第6週 室町時代
 第7週 安土、桃山時代
 第8週 江戸時代
 第9週 住宅の歴史（古代～現代まで）
 第10週 谷崎潤一郎「陰翳礼賛」
 第11週 中間試験
 第12週 ギリシャ建築
 第13週 ローマ建築
 第14週 「陰翳礼賛」演習 制作
 第15週 「陰翳礼賛」演習 提出

成績評価方法	期末試験で評価する。
教科書	図説 建築の歴史 西洋・日本・近代 (学芸出版社)
参考書	
備考	

科目名			担当者	
建築史Ⅱ			増田 学身	常勤
配当年次	授業形式	授業時間	単位	実務経験等
1年次・後期	講義	30時間	必修 2単位	無

授業の目的と到達目標	人間の手による極めて大きな造形である「建築」が歴史の中でどのように変化してきたかを学習しながら、建築物造形の手法と表現について学んでいく。また、人類の歴史に重要な役割を担った有名な建築物について深く考察することによって、建築の本質を広く考えていく。
授業の概要 達成課題	<ul style="list-style-type: none"> ・日本建築について関心を持ち、日本家屋の在り方について考えることができる。 ・西洋建築の材料、構造、デザインについて学び、日本建築を比較して検討できる。
【各回のテーマ・内容・授業方法】	
第1週	初期キリスト教・ロマネスク建築
第2週	ビザンチン建築
第3週	ゴシック建築
第4週	ルネサンス建築
第5週	バロック建築
第6週	ロココ建築
第7週	アールヌーボーとバウハウス
第8週	安藤忠雄
第9週	中間試験
第10週	デ・ステイル
第11週	建築家「F・L・ライト」
第12週	建築家「ル・コルビジエ」
第13週	建築家「原広司ー宮城県図書館」
第14週	建築家「伊東豊雄ーせんだいメディアテーク」
第15週	建築家「石山修武ーリアスアーク美術館」
成績評価方法	期末試験で評価する。
教科書	図説 建築の歴史 西洋・日本・近代 (学芸出版社)
参考書	
備考	

科目名			担当者	
建築積算 I			増田 豊文	非常勤
配当年次	授業形式	授業時間	単位	実務経験等
2年次・前期	講義	30時間	必修 2単位	無

授業の目的と到達目標	建物積算の仕事の流れを理解する。 建物積算における内部仕上げ（床、壁、天井）の計測、計算が出来る。 土工積算の考え方、計測、計算が出来る。 躯体積算の先部材、後部材が理解できる。
授業の概要 達成課題	まず、建築物の構成を学び、建築設計と建築積算の関わりについて学ぶ。 次に、積算基準に基づき仕上げ積算の方法、計測、計算方法について学ぶ。 更に、土工積算、鉄筋コンクリート部材の積算の元となる先部材、後部材の関係を学ぶ。
【各回のテーマ・内容・授業方法】	
<p>第1週 建築積算とは</p> <p>第2週 建築生産のプロセスの概要と建築積算</p> <p>第3週 入札</p> <p>第4週 積算業務の概要</p> <p>第5週 設計図書、工事費の構成</p> <p>第6週 建築コストにおける数量と単価、内訳書</p> <p>第7週 積算基準</p> <p>第8週 仕上げ積算 内部 床</p> <p>第9週 仕上げ積算 内部 壁、幅木</p> <p>第10週 仕上げ積算 内部 天井、回り縁</p> <p>第11週 仕上げ積算 復習中間試験 (内部仕上げ)</p> <p>第12週 仕上げ積算 復習中間試験 (内部仕上げ) 解答解説</p> <p>第13週 土工積算の考え方</p> <p>第14週 躯体構成</p> <p>第15週 コンクリート、型枠、鉄筋 計測、計算の方法 躯体の拾い方</p>	
成績評価方法	中間試験 20点×2、期末試験 60点、合計 100点にて評価する。
教科書	「建築数量積算基準、同解説」大成出版社
参考書	
備考	私語厳禁、携帯電話はマナーモードにする、教員入室前に着席、授業で使用する教科書等は授業前に準備が完了するなど、大人の常識、社会の常識で授業に臨むこと。

科目名			担当者	
建築積算Ⅱ			増田 豊文	非常勤
配当年次	授業形式	授業時間	単位	実務経験等
2年次・後期	講義	30時間	必修 2単位	無

授業の目的と到達目標	建物積算の仕事の流れを理解する。 建物積算における鉄筋コンクリート躯体の計測、計算が出来る。 鉄筋コンクリート工事の仮設の計測、計算が出来る。
授業の概要 達成課題	まず、鉄筋コンクリート構造建築物の基礎、柱、梁の計測、計算方法を学ぶ。 次に、鉄筋コンクリート構造建築物の小梁、床、壁などの二次部材の計測、計算方法を学ぶ。 最後に、建築工事における仮設に係わる積算法を学ぶ。
【各回のテーマ・内容・授業方法】	
第1週 躯体積算 独立基礎計測、計算の方法 第2週 躯体積算 布基礎計測、計算の方法 第3週 躯体積算 基礎柱計測、計算の方法 第4週 躯体積算 基礎梁計測、計算の方法 第5週 躯体積算 独立基礎、布基礎の復習中間試験1 第6週 躯体積算 独立基礎、布基礎の復習中間試験1の解答解説 第7週 躯体積算 柱計測、計算の方法 第8週 躯体積算 大梁計測、計算の方法 第9週 躯体積算 柱、大梁の復習中間試験2 第10週 躯体積算 柱、大梁の復習中間試験2の解答解説 第11週 躯体積算 小梁計測、計算の方法 第12週 躯体積算 床版計測、計算の方法 第13週 躯体積算 壁計測、計算の方法 第14週 共通仮設 計測、計算の方法 第15週 直接仮設 計測、計算の方法	
成績評価方法	中間試験 20点×2、期末試験 60点、合計 100点にて評価する。
教科書	「建築数量積算基準、同解説」大成出版社
参考書	
備考	私語厳禁、携帯電話はマナーモードにする、教員入室前に着席、授業で使用する教科書等は授業前に準備が完了するなど、大人の常識、社会の常識で授業に臨むこと。

科目名			担当者	
建築施工 I			海子 揮一	非常勤
配当年次	授業形式	授業時間	単位	実務経験等
2年次・前期	講義	30時間	必修 2単位	無

授業の目的と到達目標	建物生産の手順、必要な知識を理解する。 建物作業所において安全管理が出来る。 建物作業所において工程管理が出来る。 建物作業所において労務管理が出来る。 建物作業所において品質管理が出来る。
授業の概要 達成課題	まず、建築生産の手順を学び、工事に着手するまでの手続きについて学ぶ。 次に、作業所における安全衛生と材料保管について学ぶ。 更に、仮設工事、土工事、鉄筋コンクリート工事の内鉄筋工事、型枠工事、コンクリート工事の順に作業に関わる留意点、管理項目について学ぶ。
【各回のテーマ・内容・授業方法】	
第1週 建築生産 第2週 施工者の選定 第3週 工事に着手 第4週 安全衛生管理 第5週 建築材料の保管と管理 第6週 仮設工事、準備工事 第7週 土工事 第8週 地業、基礎工事 第9週 鉄筋コンクリート工事 概説 第10週 鉄筋コンクリート工事 鉄筋工事（材料） 第11週 鉄筋コンクリート工事 鉄筋工事（加工） 第12週 鉄筋コンクリート工事 型枠工事（型枠の構成） 第13週 鉄筋コンクリート工事 型枠工事（型枠の組み立て） 第14週 鉄筋コンクリート工事 コンクリート工事（材料、施工） 第15週 鉄筋コンクリート工事 コンクリート工事（品質管理）	
成績評価方法	期末試験にて評価する。
教科書	「初学者の建築講座 建築施工」市ヶ谷出版
参考書	「ビジュアルハンドブック 必携建築資料」実教出版
備考	私語厳禁、携帯電話はマナーモードにする、教員入室前に着席、授業で使用する教科書等は授業前に準備が完了するなど、大人の常識、社会の常識で授業に臨むこと。

科目名			担当者	
建築施工Ⅱ			海子 揮一	非常勤
配当年次	授業形式	授業時間	単位	実務経験等
2年次・後期	講義	30時間	必修 2単位	無

授業の目的と到達目標	建物生産の手順、必要な知識を理解する。 建物作業所において安全管理が出来る。 建物作業所において工程管理が出来る。 建物作業所において労務管理が出来る。 建物作業所において品質管理が出来る。
授業の概要 達成課題	まず、鉄骨工事における主体架構の工場製作について学ぶ。 次に、鉄骨工事における主体架構の現場施工について学ぶ。 更に、鉄骨工事における床、鉄骨階段の施工について学ぶ。 最後に、各種仕上げ施工について、管理項目を学ぶ。

【各回のテーマ・内容・授業方法】

- 第1週 鉄骨工事 概説
- 第2週 鉄骨工事 工場製作（製作工場の選定）
- 第3週 鉄骨工事 工場製作（現寸検査）
- 第4週 鉄骨工事 工場製作（溶接法）
- 第5週 鉄骨工事 工事現場施工（搬入、受け入れ）
- 第6週 鉄骨工事 工事現場施工（足場）
- 第7週 鉄骨工事 工事現場施工（高力ボルト接合、現場溶接）
- 第8週 鉄骨工事 床
- 第9週 鉄骨工事 鉄骨階段
- 第10週 屋根、防水工事
- 第11週 仕上げ工事 仕上げ工事の考え方、タイル、石工事
- 第12週 仕上げ工事 ガラス工事
- 第13週 金属工事
- 第14週 塗装・吹き付け工事
- 第15週 設備工事

成績評価方法	期末試験にて評価する。
教科書	「初学者の建築講座 建築施工」市ヶ谷出版
参考書	「ビジュアルハンドブック 必携建築資料」実教出版
備考	私語厳禁、携帯電話はマナーモードにする、教員入室前に着席、授業で使用する教科書等は授業前に準備が完了するなど、大人の常識、社会の常識で授業に臨むこと。

科目名			担当者	
建築設備 I			佐竹 正行	常勤
配当年次	授業形式	授業時間	単位	実務経験等
2年次・前期	講義	30時間	必修 2単位	有

授業の目的 と 到達目標	給排水衛生設備、空気調和設備、電気設備についての機能、各システムの種類と内容を理解する。 建築の設計において、必要な給排水・衛生設備について計画できる。給水、給湯、排水設備の基本的配管方法を身に付け配管図を読むことができる。 ※1級管工事施工管理技士として、建築設備（設計及び管理）の経験を持つ教員が授業を担当する。
授業の概要 達成課題	まず、建築計画における建築設備の必要性について学ぶ。 次に、水道水の水質基準から給水、給湯、排水に関する設備を学ぶ 更に、給水給湯設備の配管図を読むこと簡単な配管図を描くことができるようにする。
【各回のテーマ・内容・授業方法】	
第1週 建築設備とは 第2週 給水設備・・・上水道施設～給水量の計算 第3週 給水設備・・・給水方式～管材および配管方法 第4週 給水設備・・・高層建築物への給水方法 第5週 給湯設備・・・湯の性質～ボイラの種類 第6週 給湯設備・・・給湯方式～管材および配管方法 第7週 給水給湯設備のまとめ 第8週 排水通気設備・・・排水方式～管材および配管方法 第9週 排水通気設備・・・排水勾配について 第10週 排水通気設備・・・トラップ～管径計算 第11週 排水通気設備・・・排水金物および通気金物 第12週 排水通気設備・・・屋外排水設備 第13週 衛生器具類 第14週 排水通気設備のまとめ 第15週 給排水衛生設備の総まとめ	
成績評価方法	期末試験にて評価する。
教科書	「初学者の建築講座 建築設備」市ヶ谷出版
参考書	
備考	私語厳禁、携帯電話はマナーモードにする、教員入室前に着席、授業で使用する教科書等は授業前に準備が完了するなど、大人の常識、社会の常識で授業に臨むこと。

科目名			担当者	
建築設備Ⅱ			佐竹 正行	常勤
配当年次	授業形式	授業時間	単位	実務経験等
2年次・後期	講義	30時間	必修 2単位	有

授業の目的と到達目標	<p>消防設備などの防災設備、空気調和設備、電気設備についての機能、各システムの種類と内容を理解する。建築の設計において、必要な消防および空調の技術について計画できる。消防および空調の基本的配管方法を身につけ配管図を読むことができる。2級管工事施工管理技士受験に必要とする知識を理解習得する。</p> <p>※1級管工事施工管理技士として、建築設備（設計及び管理）の経験を持つ教員が授業を担当する。</p>
授業の概要 達成課題	<p>まず、建築計画における建築設備の必要性について学ぶ。</p> <p>次に、冷暖房熱源機を含む空気調和設備の機器類、配管などについて学ぶ。</p> <p>更に、防災設備、空調設備の配管図を読むこと簡単な配管図を描くことができるようにする。</p>
【各回のテーマ・内容・授業方法】	
<p>第1週 建築設備とは</p> <p>第2週 建築基準法と消防法</p> <p>第3週 消防設備・・・消火器～屋内消火栓（1号、2号）放水量の計算およびポンプの選定</p> <p>第4週 消防設備・・・スプリンクラー設備～放水量の計算</p> <p>第5週 消防設備・・・自動火災報知機～電源および予備電源</p> <p>第6週 消防設備・・・自家発電装置</p> <p>第7週 消防設備および防災設備のまとめ</p> <p>第8週 空気調和設備・・・気流～換気</p> <p>第9週 空気調和設備・・・冷暖房負荷計算～熱負荷計算</p> <p>第10週 空気調和設備・・・各種冷暖房方式および機器類の紹介</p> <p>第11週 空気調和設備・・・機器類の搬入および据え付け</p> <p>第12週 空気調和設備・・・熱源の種類および熱源設備</p> <p>第13週 空気調和設備・・・ダクトの種類およびサイズの計算例</p> <p>第14週 空気調和設備・・・自動制御装置～動力設備</p> <p>第15週 防災設備および空気調和設備のまとめ</p>	
成績評価方法	期末試験にて評価し、60点以上を合格とする。
教科書	「初学者の建築講座 建築設備」市ヶ谷出版
参考書	
備考	私語厳禁、携帯電話はマナーモードにする、教員入室前に着席、授業で使用する教科書等は授業前に準備が完了するなど、大人の常識、社会の常識で授業に臨むこと。

科目名			担当者	
建築法規 I			佐藤 睦子	非常勤
配当年次	授業形式	授業時間	単位	実務経験等
1 年次・後期	講義	30 時間	必修 2 単位	有

授業の目的と到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・ 建築基準法で使用される用語について正しく理解する。 ・ 建築行為に関わる行政上の手続きの概要を理解し、手続きの流れを説明できる。 ・ 建物単体の安全性や快適性に関わる法令についての条文を正しく読解できる。 ・ 上記に関する建築関係法令集の箇所について、条文を正確かつ素早く引けるようになる。 ※建築設計事務所を開設し、建築設計（建築法規実務）の経験のある一級建築士の教員が授業を担当する。
授業の概要 達成課題	建築基準法は、生命、健康、財産を守るための必要最小限の決まりであり、建築技術者は、この法をもとに豊かな生活環境を生み出していく責任がある。そのために、建築基準法を正しく理解する必要がある。 まず、建築基準法の体系や構成、条文の構成、法令の用語について説明する。 次に、様々な規定を正しく解釈するには法令で使用する用語を厳密に規定して使用する必要があるため、用語の定義について解説する。また、建築等の行為には行政上の手続きが必要なため、諸手続きの流れを解説する。 後半部は建物単体の安全性や快適性に関わる法令についての条文を解説し、まとめとする。 該当する条文を正しく読解できるように、法令集にマークしながら的確に引く方法を解説する。
【各回のテーマ・内容・授業方法】	
第 1 週 ガイダンス 法の構成、法の理念 第 2 週 用語の定義① 建築物等の用語 第 3 週 用語の定義② 防火関係用語 第 4 週 用語の定義③ 面積の算定方法 第 5 週 用語の定義④ 高さ等の算定方法 第 6 週 建築基準法の手続き等① 確認申請、中間検査、完了検査 第 7 週 建築基準法の手続き等② 届出、報告・検査等 第 8 週 単元テスト① 総則 第 9 週 まとめ 第 10 週 一般構造規定① 階段、居室の天井高さ等 第 11 週 一般構造規定② 採光、換気（1） 第 12 週 一般構造規定③ 採光、換気（2） 第 13 週 一般構造規定④ 界壁の遮音、便所、設備等 第 14 週 単元テスト② 一般構造規定 第 15 週 まとめ	
成績評価方法	<ul style="list-style-type: none"> ・ 単元テスト①②の合計（40%） ・ 期末テスト（60%） ※全テストにおいて『基本建築関係法令集』の持込みが可能です。
教科書	『2020 年度版建築関係法令集（法令編）』／総合資格学院 『初めての建築法規』／学芸出版社
参考書	プリントを配布することもあります。
備考	『基本建築関係法令集』の重要な箇所に直接線を引きながら授業を進めます。赤青色鉛筆と直定規を持参してください。欠席した際は、次回授業までに担当教員から配布プリント等を受け取り、授業時間内で法令集に線を引いた箇所を補うなど自宅学習してください。

科目名			担当者	
建築法規Ⅱ			佐藤 睦子	非常勤
配当年次	授業形式	授業時間	単位	実務経験等
2年次・前期	講義	60時間	必修 4単位	有

授業の目的と到達目標	<p>建築法規Ⅰに引き続き、建築基準法の条文について内容を理解し、読解力をつける。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 防火、避難規定について概要を理解する。 ・ 構造計算の内容や各種構造の構造強度規定について概要を理解する。 ・ 集団規定の目的、概要を正しく理解する。 ・ 集団規定に定められた、概要を正しく理解する。 ・ 上記に関する建築関係法令集の箇所について、条文を適確かつ素早く引けるようになる。 <p>※建築設計事務所を開設し、建築設計（建築法規実務）の経験のある一級建築士の教員が授業を担当する。</p>
授業の概要 達成課題	<p>前半部は建築法規Ⅰに引き続き、単体規定の内容を進める。 災害時等における建築物の安全性について定めた規定が避難規定である。この避難規定について条文を解説する。 また、様々な荷重における建築物の安全性について定めた規定が構造強度規定である。この構造強度規定について条文を解説する。 後半部は“都市を構成する建築物”という視点で建物を捉えた集団規定について、条文を解説し、まとめとする。 該当する条文を正しく読解できるように、法令集にマークしながら的確に引く方法を解説する。</p>
【各回のテーマ・内容・授業方法】	
第1週 ガイダンス	法規Ⅰの復習
第2週 防火、避難規定①（大規模木造建築物等）	防火、避難規定②（防火区画、界壁間仕切り壁）
第3週 防火、避難規定③（耐火建築物）	防火、避難規定④（内装制限）
第4週 防火、避難規定⑤（廊下、避難階段の適用範囲）	防火、避難規定⑥（特別避難階段等の設置）
第5週 防火、避難規定⑦（排煙設備、非常照明等）	防火、避難規定⑧（中間試験（1））
第6週 防火、避難規定のまとめ	構造強度規定①（構造計算の原則、木造）
第7週 構造強度規定②（組積造、鉄骨造）	構造強度規定③（鉄筋コンクリート造等）
第8週 構造強度規定④（組積造、鉄骨造）	構造強度規定のまとめ
第9週 集団規定の概要	道路（道路の種類、みなし道路、指定道路）
第10週 用途地域	防火地域、準防火地域
第11週 容積率	建ぺい率
第12週 集団規定①（中間試験（2））	集団規定①のまとめ
第13週 高さの制限①（道路斜線、絶対高さ制限）	高さの制限②（隣地斜線制限、北側斜線制限）
第14週 高さの制限③（日影規制）	基準法その他の規定
第15週 集団規定②（中間試験（3））	集団規定②のまとめ
成績評価方法	<ul style="list-style-type: none"> ・ 中間試験（30%） ・ 期末試験（70%） <p>※全試験において『基本建築関係法令集』の持込みが可能です。</p>
教科書	『2019年度版建築関係法令集（法令編）』／総合資格学院 『初めての建築法規』／学芸出版社
参考書	プリントを配布することもあります。
備考	『建築関係法令集』の重要な箇所に直接線を引ながら授業を進めます。赤青色鉛筆と直定規を持参してください。欠席した際は、次回授業までに担当教員から配布プリント等を受け取り、授業時間内で法令集に線を引いた箇所を補うなど自宅学習してください。

科目名			担当者	
建築法規Ⅲ			佐藤 睦子	非常勤
配当年次	授業形式	授業時間	単位	実務経験等
2年次・後期	講義	30時間	必修 2単位	有

授業の目的と到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・ 建築法規Ⅰ及び建築法規Ⅱで学んだ法令について、問題演習を通して内容の理解を深める。 ・ 各建築関連法規（バリアフリー新法、耐震改修促進法、建築士法等）について目的や概要を理解する。さらに法令文を正しく読解できる。 ・ 二級建築士試験問題の出題形式に慣れる。さらに解答を導き出せるように法令文を正しく読解できる。 ※建築設計事務所を開設し、建築設計（建築法規実務）の経験のある一級建築士の教員が授業を担当する。
授業の概要達成課題	前半部では建築法規Ⅰ及び建築法規Ⅱで学んだ法令について復習をした後、演習問題の解答の仕方を解説する。これによって二級建築士試験の出題傾向や解答方法に関する基礎知識を得ることができる。 次に、建築基準法以外の建築関連法規（バリアフリー新法、耐震改修促進法、建築士法等）について法の目的や概要を説明する。また該当する条文を正しく読解できるように、法令集にマークしながら的確に引く方法を解説する。
【各回のテーマ・内容・授業方法】	
第1週 ガイダンス／建築基準法復習①（面積、高さの算定方法） 第2週 建築基準法復習②（一般構造規定） 第3週 建築基準法復習③（構造強度規定） 第4週 建築基準法復習④（防火、避難規定） 第5週 建築基準法復習⑤（建ぺい率、容積率） 第6週 建築基準法復習⑥（高さ規定） 第7週 建築基準法復習⑦（確認、届出等の手続きに関する規定） 第8週 建築基準法復習⑧（単元テスト①） 第9週 建築関連法規①（高齢者、障害者等の移動等の円滑化の促進に関する法律（バリアフリー新法）） 第10週 建築関連法規②（建築物の耐震改修の促進に関する法律） 第11週 建築関連法規③（建築士法） 第12週 建築関連法規④（建設業法、住宅の品質確保の促進に関する法律） 第13週 建築関連法規⑤（都市計画法） 第14週 建築関連法規⑥（単元テスト②） 第15週 まとめ	
成績評価方法	<ul style="list-style-type: none"> ・ 単元テスト①②の合計（40%） ・ 期末テスト（60%） ※全テストにおいて『基本建築関係法令集』の持込みが可能です。
教科書	『2019年度版建築関係法令集（法令編）』／総合資格学院 『初めての建築法規』／学芸出版社
参考書	プリントを配布することもあります。
備考	『基本建築関係法令集』の重要な箇所直接線を引きながら授業を進めます。赤青色鉛筆と直定規を持参してください。欠席した際は、次回授業までに担当教員から配布プリント等を受け取り、授業時間内で法令集に線を引いた箇所を補うなど自宅学習してください。

科目名			担当者	
構造力学 I			佐竹 正行	常勤
配当年次	授業形式	授業時間	単位	実務経験等
1 年次・通年	講義	60 時間	必修 4 単位	無

授業の目的と到達目標	<p>構造物は常に雨、風、積載物などの「力」を受ける。この「力」を理解して安全で合理的な構造物の基礎的な部分を理解する。</p> <ul style="list-style-type: none"> 各種の梁構造を理解して反力や応力計算をすることができる。 構造物の簡単な設計ができる。
授業の概要達成課題	<p>構造物は様々な部材で構成されている。それらがどのような荷重を受け応力を生じているかなどを詳しく解説した上で演習問題を解く。</p>

【各回のテーマ・内容・授業方法】

第 1 週	ガイダンス	第 16 週	ガイダンス
第 2 週	力と荷重	第 17 週	応力の種類 (1)
第 3 週	力の三要素	第 18 週	応力の種類 (2)
第 4 週	力の合成・・・作図と計算	第 19 週	応力計算 (1)
第 5 週	力の分解・・・作図と計算	第 20 週	応力計算 (2)
第 6 週	力とモーメント	第 21 週	応力計算 (3)
第 7 週	バリニオンの定理	第 22 週	応力図を描く (1)
第 8 週	力のつりあいの式 (1)	第 23 週	応力図を描く (2)
第 9 週	力のつりあいの式 (2)	第 24 週	応力図を描く (3)
第 10 週	外力と応力	第 25 週	梁を解き応力図を描く (1)
第 11 週	静定梁	第 26 週	梁を解き応力図を描く (2)
第 12 週	各種梁の反力計算 (1)	第 27 週	梁を解き応力図を描く (3)
第 13 週	各種梁の反力計算 (2)	第 28 週	演習 (1)
第 14 週	各種梁の反力計算 (3)	第 29 週	演習 (2)
第 15 週	まとめ	第 30 週	まとめ

成績評価方法	定期試験によって評価する。
教科書	図解レクチャー 構造力学 (学芸出版社)、「構造力学演習用教材」東北文化学園専門学校
参考書	
備考	各種の専門科目の基礎になるので要点を十分に習得すること。

科目名			担当者	
構造力学Ⅱ			佐竹 正行	常勤
配当年次	授業形式	授業時間	単位	実務経験等
2年次・前期	講義	30時間	必修 2単位	無

授業の目的と到達目標	<p>建物に加わる様々な力によって発生する、建物の部材応力を理解する。 様々な力によってトラス部材に発生する反力、応力を算出できる。 断面の諸性能を理解した上で、部材に生じる応力度、ひずみ度を算出できる。 不静定構造物の梁に生じる変形を、モールの定理で算出できる。 不静定構造物に生じる応力を固定法と、武藤清博士のD値法で解析できる。 建物の計算過程で剛性率、偏心率、層間変形角を算出できる</p>
授業の概要 達成課題	<p>まず、トラスの解析法として節点法と切断法を学ぶ。 次に、断面の諸性能を学び、それを用いて、部材内に生じる応力度、ひずみ度を理解する。 更に、不静定構造物の変形を学び、不静定構造物の鉛直荷重時応力を固定法で、水平荷重時応力を武藤博士のD値法で解析する。 最後に、不静定構造物の剛性率、偏心率、層間変形角の計算法を学ぶ。</p>
【各回のテーマ・内容・授業方法】	
<p>第1週 静定トラス①(節点法) 第2週 静定トラス②(切断法) 第3週 部材に生じる応力度① (応力度、ひずみ度) 第4週 断面の性質① (断面1次モーメント、図心位置) 第5週 断面の性質② (断面2次モーメント) 第6週 断面の性質③ (断面係数、断面2次半径) 第7週 まとめ 中間試験 第8週 部材に生じる応力度② (曲げ応力度、せん断応力度) 第9週 部材に生じる応力度③ (軸方向応力度、曲げ応力度) 第10週 部材に生じる応力度④ (座屈) 第11週 部材に生じる応力度⑤ (断面の核) 第12週 不静定構造物① (梁の変形、モールの定理) 第13週 不静定構造物② (不静定梁の解法) 第14週 不静定構造物の解法① (固定モーメント法) 第15週 不静定構造物の解法② (剛性率、偏心率、層間変形角の計算)</p>	
成績評価方法	<p>中間試験 (40%)、期末試験 (60%) にて評価する。 確認テストをすべて受験した者を評価対象とする。</p>
教科書	「最新建築構造設計入門」実教出版社、「構造力学演習用教材」東北文化学園専門学校
参考書	
備考	<p>講義スケジュールを確認し、講義内容の範囲は教科書を一読してから授業に臨んでください。 欠席した際は、次回授業までに担当教員からプリント等を受け取り、自宅学習してください。</p>

科目名			担当者	
図学			長澤 智広	常勤
配当年次	授業形式	授業時間	単位	実務経験等
1 年次・後期	演習	30 時間	必修 1 単位	無

授業の目的と到達目標	基礎課程として、空間構成や立体構成の感覚を身に付けるために遠近法基礎と表現技法の基礎を学ぶ。
授業の概要 達成課題	透視図法を使用して、室内、外観パースを描ける表現力を身につける。
【各回のテーマ・内容・授業方法】	
第 1 週 基本事項 ①拡大法と縮小法 第 2 週 基本事項 ②1～3 点透視図法 第 3 週 基本事項 ③陰影図法 自然光と人口光 第 4 週 室内パース 1 点透視法/縮小法 第 5 週 室内パース 1 点透視法/拡大法 第 6 週 室内パース 2 点透視法/縮小法 第 7 週 室内パース 2 点透視法/拡大法 第 8 週 室内パース 3 点透視法 (簡略図法) /縮小法 第 9 週 室内パース 3 点透視法 (簡略図法) /拡大法 第 10 週 アイソメトリック図法 第 11 週 外観パース 1 点透視法 第 12 週 外観パース 2 点透視法 第 13 週 外観パース 3 点透視法 (2 点透視法修正簡略図法) 第 14 週 アクソメトリック図法 第 15 週 まとめ	
成績評価方法	指定課題の提出で評価する。
教科書	建築パース演習教本
参考書	課題ごとにプリントを配布。
備考	透視図法を基本として、考え方と描き方を学びます。

科目名			担当者	
設計製図 I			氏家 真史	非常勤
配当年次	授業形式	授業時間	単位	実務経験等
1 年次・前期	演習	1 2 0 時間	必修 4 単位	有

授業の目的と到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・ 木造軸組工法を理解する。 ・ 図面表現と図面の役割を理解する。 ・ 木造 2 階建て住宅の基本図面を製作するために必要な製図の知識と技術を身につける。 ※1 級建築士として 10 年以上の実務経験を持つ担当教員が設計製図を指導する。
授業の概要 達成課題	<ul style="list-style-type: none"> ・ 木造 2 階建て住宅の基本図面を段階的に製作し所定の体裁でまとめる。 ・ 図面の製作過程において添削し正しい製図手順や表現方法が身につくようにアドバイスする。 ・ 基礎学習プリントを用いて作図の手順と構造・工法を解説する。 ・ 検定試験により木造住宅に関する知識ならびに製図の知識と作図力の習得度を確認する。
【各回のテーマ・内容・授業方法】	
第 1 週 ガイダンス・製図入門 第 2 週 [製図の基本-1] 1 階平面図の手順 第 3 週 [製図の基本-2] 1 階平面図・配置図 第 4 週 [製図の基本-3] 2 階平面図 第 5 週 [製図の基本-4] 断面図 第 6 週 [製図の基本-5] 立面図 第 7 週 中間検定 (製図の基本に関連する知識と作図力の習得度を確認する) 第 8 週 [住宅の仕組み-1] 基礎伏図 第 9 週 [住宅の仕組み-2] 1 階床伏図 第 10 週 [住宅の仕組み-3] 2 階床伏図・1 階小屋伏図 第 11 週 [住宅の仕組み-4] 小屋伏図 第 12 週 [住宅の仕組み-5] 軸組図 第 13 週 [住宅の仕組み-6] かなばかり図 第 14 週 [住宅の仕組み-7] かなばかり図 第 15 週 修了検定 (木造住宅に関する知識ならびに製図の知識と作図力の習得度を確認する)	
成績評価方法	<ul style="list-style-type: none"> ・ 課題作品で評価する。
教科書	『初めての建築製図』(学芸出版社)
参考書	製図見本(オリジナル教材カラーコピー版)
備考	課題プリント、関連資料、エスキス用紙を配布する。 欠席の際は後日担当者から直接プリント等を受け取り、自主学習し次回の授業に備えること。

科目名			担当者	
設計製図Ⅱ A			氏家 真史	非常勤
配当年次	授業形式	授業時間	単位	実務経験等
1 年次・後期	演習	60 時間	必修 2 単位	有

授業の目的と到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・木造住宅のエスキスから製図まで実践的な設計手法を身につける。 ・課題条件を満たす木造住宅を設計し図面と模型で表現できるようになる。 ※1 級建築士として 10 年以上の実務経験を持つ担当教員が設計製図を指導する。
授業の概要 達成課題	<ul style="list-style-type: none"> ・課題 1 新興住宅地に建つ小家族向け木造 2 階建住宅の制作を通してエスキス、プランニング、表現方法等について詳しく説明する。住宅設計のプロセスを実践する。 ・課題 2 山林の別荘地に建つ週末小住宅の制作を通して模型による構想手法、敷地と建築の関係等について詳しく説明する。課題 1 の成果を応用しながら住宅設計のプロセスを実践する。 ・各課題の制作過程においてステップ毎に添削し、設計手順や適切な表現方法をアドバイスする。 ・設計案を配置図・平面図・立面図面・断面図面・模型により表現する。
【各回のテーマ・内容・授業方法】	
第 1 週	[課題 1] エスキス-1 課題解説・平面計画
第 2 週	[課題 1] エスキス-2 平面計画
第 3 週	[課題 1] エスキス-3 断面計画・立面計画
第 4 週	[課題 1] エスキス-4 プランのまとめ
第 5 週	[課題 1] 製図-1 配置図・1 階平面図
第 6 週	[課題 1] 製図-2 2 階平面図
第 7 週	[課題 1] 製図-3 立面図・断面図
第 8 週	[課題 1] 模型
第 9 週	[課題 1] まとめ・講評
第 10 週	[課題 2] エスキス-1 課題解説・土地模型
第 11 週	[課題 2] エスキス-2 エスキス模型・平面計画
第 12 週	[課題 2] エスキス-3 エスキス模型・立面計画・断面計画
第 13 週	[課題 2] 製図 配置図・平面図・立面図・断面図
第 14 週	[課題 2] 模型 外観模型仕上げ
第 15 週	[課題 2] まとめ・講評
成績評価方法	<ul style="list-style-type: none"> ・課題作品で評価する。
教科書	
参考書	『初めての建築製図』(学芸出版社)
備考	課題プリント、関連資料、エスキス用紙を配布する。 欠席の際は後日担当者から直接プリント等を受け取り、自主学习し次回の授業に備えること。

科目名			担当者	
設計製図ⅡB			氏家 真史	非常勤
配当年次	授業形式	授業時間	単位	実務経験等
1 年次・後期	演習	60 時間	必修 2 単位	有

授業の目的と到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・設計製図ⅡA で身につけた実践的な設計手法と表現技術を応用する。 ・木造住宅のエスキスから製図まで実践的な設計手法を身につける。 ・課題条件を満たす新しい住宅スタイルを創造し図面と模型で表現できるようになる。 ※1 級建築士として 10 年以上の実務経験を持つ担当教員が設計製図を指導する。
授業の概要 達成課題	<ul style="list-style-type: none"> ・課題：海岸の高台に建つ工房とギャラリーを備えた工芸作家の住宅の製作を通して仕事場と生活空間のあり方を概説する。 実践的な設計手法と表現技術を応用し新しい住宅スタイルを提案する。 製作過程においてステップ毎に添削し、設計手順や適切な表現方法をアドバイスする。 設計案を、各階平面図、立面図面、断面図面、模型で表現する。
【各回のテーマ・内容・授業方法】	
第1週 課題解説・仕事場と生活空間の関係・空間構成について概説 第2週 [エスキス-1] 外部の動線計画・建物内部の動線計画 第3週 [エスキス-2] 平面計画-1 第4週 [エスキス-3] 平面計画-2 第5週 [エスキス-4] 立面計画・断面計画-1 第6週 [エスキス-5] 立面計画・断面計画-2 第7週 [エスキス-6] まとめ 第8週 [製図-1] 配置図・平面図-1 第9週 [製図-2] 配置図・平面図-2 第10週 [製図-3] 立面図・断面図-1 第11週 [製図-4] 立面図・断面図-2 第12週 [模型-1] 外観模型-1 第13週 [模型-2] 外観模型-2 第14週 [模型-3] 外観模型-3 第15週 まとめ・講評	
成績評価方法	<ul style="list-style-type: none"> ・課題作品で評価する。
教科書	
参考書	『初めての建築製図』（学芸出版社）
備考	課題プリント、関連資料、エスキス用紙を配布する。 欠席の際は後日担当者から直接プリント等を受け取り、自主学习し次回の授業に備えること。

科目名			担当者	
設計製図ⅢA			齊藤 彰	非常勤
配当年次	授業形式	授業時間	単位	実務経験等
2年次・前期	演習	45時間	必修 1.5単位	有

授業の目的と到達目標	鉄筋コンクリート建築物の基本的な構造を理解し、作図法を身につける。 鉄筋コンクリート建築物の通り心と壁心に関係づける。 鉄筋コンクリート建築物の平面図を作図できる。 鉄筋コンクリート建築物の立面図を作図できる。 鉄筋コンクリート建築物の断面図を作図できる。 ※一級建築士として建築設計（設計製図）の経験を持つ教員が授業を指導する。
授業の概要 達成課題	まず、鉄筋コンクリート建築物の基本図と言われる、平面図、立面図、断面図を作図することにより、基本的な構造を学ぶ。 次に、仕上げ表を書くことにより、鉄筋コンクリート建築物に一般的に用いられる仕上げを学ぶ。

【各回のテーマ・内容・授業方法】

第1週	ガイダンス	設計課題1	RC造「店舗付事務所」配置図・平面図（S=1/100）作図
第2週	設計課題1	RC造「店舗付事務所」配置図・平面図（S=1/100）作図	
第3週	設計課題1	RC造「店舗付事務所」配置図・平面図（S=1/100）作図、提出	
第4週	設計課題1	RC造「店舗付事務所」立面図・断面図（S=1/100）作図	
第5週	設計課題1	RC造「店舗付事務所」立面図・断面図（S=1/100）作図、提出	
第6週	設計課題1	RC造「店舗付事務所」階段詳細図（S=1/30）作図	
第7週	設計課題1	RC造「店舗付事務所」階段詳細図（S=1/30）作図	
第8週	設計課題1	RC造「店舗付事務所」階段詳細図（S=1/30）作図、提出	
第9週	設計課題2	木造住宅	天井伏図（S=1/100）作図、提出
第10週	設計課題2	木造住宅	展開図（S=1/100）作図
第11週	設計課題2	木造住宅	展開図（S=1/100）作図、提出
第12週	設計課題2	木造住宅	建具表（S=1/50）作図
第13週	設計課題2	木造住宅	建具表（S=1/50）作図
第14週	設計課題2	木造住宅	建具表（S=1/50）作図、提出
第15週	まとめ		

成績評価方法	提出された課題作品で評価する。
教科書	配布資料
参考書	
備考	私語厳禁、携帯電話はマナーモードにする、教員入室前に着席、授業で使用する教科書等は授業前に準備が完了するなど、大人の常識、社会の常識で授業に臨むこと。

科目名			担当者	
設計製図ⅢB			千葉 託巳	非常勤
配当年次	授業形式	授業時間	単位	実務経験等
2年次・後期	演習	45時間	必修1.5単位	無

授業の目的と到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・二級建築士設計製図試験において合格するために必要な製図力を身につける。 ・要求される図面の適切な作図手順・表現方法を身につける。 ・要求される図面を所定の時間内に完成できる作図スピードを身につける。
授業の概要 達成課題	<ul style="list-style-type: none"> ・本試験の合否判定における採点のポイント、採点結果の区分、合格基準について解説する。 ・過去の本試験課題の答案例を参考にして繰り返し模写練習を行う。 ・答案例からプランを写し取り、それをエスキスとして要求図面一式を作図する。そのとき各図毎に目標時間を定めて時間を区切って作図練習を行う。

【各回のテーマ・内容・授業方法】

第1週	設計製図試験の概要(試験制度・特徴、不合格図面について、出題傾向)
第2週	[製図トレーニング-1] 1階平面図・配置図の練習-a/2階平面図の練習-a
第3週	[製図トレーニング-2] 1階平面図・配置図の練習-b/2階平面図の練習-b
第4週	[製図トレーニング-3] 立面図の練習/断面図の練習/面積表の練習
第5週	[製図トレーニング-4] 2階床伏図・1階小屋伏図の練習-a
第6週	[製図トレーニング-5] 2階床伏図・1階小屋伏図の練習-b
第7週	[製図トレーニング-6] かなばかり図の練習-a
第8週	[製図トレーニング-7] かなばかり図の練習-b
第9週	[トレース-A] 一式図面
第10週	[トレース-B] 一式図面
第11週	[トレース-C] 一式図面
第12週	[エスキス製図-A] プランの写し取りから一式図面
第13週	[エスキス製図-B] プランの写し取りから一式図面
第14週	[エスキス製図-C] プランの写し取りから一式図面
第15週	試験課題(プランの写し取りから一式図面)

成績評価方法	提出された課題作品で評価する。
教科書	
参考書	
備考	練習課題、製図用紙を配布します。 欠席の際は後日担当者から直接プリント等を受け取り、自主学习し次回の授業に備えること。

科目名			担当者	
設計製図ⅣA			佐竹 正行 海子 揮一	常勤 非常勤
配当年次	授業形式	授業時間	単位	実務経験等
2年次・前期	演習	60時間	必修 2単位	無

授業の目的 と 到達目標	学外のコンペの出展を最終目標とする。 社会情勢などを踏まえた設計計画を提案し、総合的な設計手法を身につけることができる。 設計作品を第三者に伝えられる、プレゼンテーション能力を習得できる。
授業の概要 達成課題	コンペ課題に沿っての建築計画の提案をする。 様々の視点から課題に向かい、建築的な回答をします。作品はグループ製作になる。 授業ごとに教員の指導アドバイスのもと、指導を受ける。

【各回のテーマ・内容・授業方法】

- 第1週 ガイダンス、昨年度の作品と紹介
 第2週 課題に関する調査
 第3週 計画案調査発表
 第4週 計画案検討
 第5週 ↓
 第6週 ↓
 第7週 ↓
 第8週 ↓
 第9週 中間プレゼンテーション
 第10週 計画案検討
 第11週 ↓
 第12週 ↓
 第13週 ↓
 第14週 ↓
 第15週 最終プレゼンテーション

成績評価方法	提出作品、発表にて評価する。
教科書	
参考書	授業中に配布する。
備考	

科目名			担当者	
設計製図ⅣB			佐竹 正行 海子 揮一	常勤 非常勤
配当年次	授業形式	授業時間	単位	実務経験等
2年次・後期	演習	60時間	必修 2単位	無

授業の目的 と 到達目標	卒業制作展の出展を最終目標とする。 社会情勢などを踏まえた設計計画を提案し、総合的な設計手法を身につけることができる。 スケジュール管理、作業分担等を身につけることができる。 設計作品を第三者に伝えられる、プレゼンテーション能力を習得できる。
授業の概要 達成課題	各自で設定する、社会情勢などを踏まえた建築設計計画の提案をしてもらいます。 様々の視点から課題に向かい建築的な回答をします。作品はグループ、個人でも構わない。 授業ごとに教員の指導アドバイスのもと、指導を受ける。
【各回のテーマ・内容・授業方法】	
第 1 週 卒業制作テーマの設定 第 2 週 ↓ 第 3 週 場所の個性を発見する、問題点と可能性をさぐる 第 4 週 計画案検討 第 5 週 ↓ 第 6 週 ↓ 第 7 週 ↓ 第 8 週 ↓ 第 9 週 中間発表会 第 10 週 計画案検討 第 11 週 ↓ 第 12 週 ↓ 第 13 週 ↓ 第 14 週 ↓ 第 15 週 後期末発表会	
成績評価方法	提出作品、発表にて評価する。
教科書	
参考書	プリントを配布することもあります。
備考	

科目名			担当者	
総合設計			本間 貴史	非常勤
配当年次	授業形式	授業時間	単位	実務経験等
2年次・後期	講義	30時間	必修 2単位	無

授業の目的と到達目標	<ul style="list-style-type: none"> 二級建築士設計製図試験に向けて設計課題文を的確に読み取ることができる読解力を身につける。 設計条件を満たす建築物を計画できるプランニング力を身につける。
授業の概要 達成課題	<ul style="list-style-type: none"> 二級建築士設計製図試験の過去の設計課題から課題テーマの整理と出題分析、各部の計画、屋外施設の計画、構造計画等の留意点を解説する。 過去の設計課題と答案例をもとにして合理的なプランニングの実例を解説する。 プランニングを実践する。
【各回のテーマ・内容・授業方法】 第1週 ・ 二級建築士設計製図試験の概要(試験制度・特徴・出題傾向) 第2週 ・ 関連法規の概要確認 第3週 ・ 計画の進め方-1(課題文の読み取り方) 第4週 ・ 計画の進め方-2(建物規模の把握) 第5週 ・ 計画の進め方-3(配置計画と外部動線) 第6週 ・ 計画の進め方-4(平面計画) 第7週 ・ ケーススタディ A(課題の読み合わせ～エスキス) 第8週 プラン作成・解説 第9週 ・ ケーススタディ B(課題の読み合わせ～エスキス) 第10週 プラン作成・解説 第11週 ・ ケーススタディ C(課題の読み合わせ～エスキス) 第12週 プラン作成・解説 第13週 ・ ケーススタディ D(課題の読み合わせ～エスキス) 第14週 プラン作成・解説 第15週 まとめ	
成績評価方法	<ul style="list-style-type: none"> プランニングの成果品で評価する。
教科書	
参考書	
備考	資料プリントを配布する。 欠席の際は後日担当者から直接プリント等を受け取り、自主学習し次回の授業に備えること。

科目名			担当者	
表現技術演習			佐藤 太一	非常勤
配当年次	授業形式	授業時間	単位	実務経験等
1年次・前期	演習	30時間	必修 1単位	有

授業の目的と到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・建築設計に役立つスタディ模型やプレゼン模型の製作に必要な知識と技術を身につける。 ・模型製作の手順を理解する。 ・模型材料に関する知識を身につける。 ・加工道具に関する知識と製作技術を身につける。 ※建築設計事務所において、建築設計（建築模型制作）の実務経験ある二級建築士の教員が授業を担当する。
授業の概要 達成課題	<ul style="list-style-type: none"> ・模型製作に関する知識と技術を解説し、製作過程の添削により技術向上を図る。 ・折り紙建築課題により建築をモチーフとした立体を表現する。 ・インテリア模型課題により室内空間を表現する。 ・分割式住宅模型課題により外観と室内空間のつながりを表現する。 ・名作住宅課題により模型製作技術を応用する。
【各回のテーマ・内容・授業方法】	
第1週 [折り紙建築] 模型材料・道具の使い方の解説 第2週 [インテリア模型-1] 床をつくる 第3週 [インテリア模型-2] 壁と開口部をつくる-1 第4週 [インテリア模型-3] 壁と開口部をつくる-2 第5週 [インテリア模型-4] まとめ 第6週 [分割式住宅模型-1] ベース・1階床・1階壁と開口部をつくる-1 第7週 [分割式住宅模型-2] 1階床・1階壁と開口部をつくる-2 第8週 [分割式住宅模型-3] 2階床・2階壁と開口部をつくる-1 第9週 [分割式住宅模型-4] 2階床・2階壁と開口部をつくる-2 第10週 [分割式住宅模型-5] 屋根をつくる 第11週 [名作住宅-1] 図面から部材を導き出し各自で手順を計画する 第12週 [名作住宅-2] 各自の手順で制作 第13週 [名作住宅-3] 各自の手順で制作 第14週 [名作住宅-4] 各自の手順で制作 第15週 まとめ	
成績評価方法	課題の提出作品にて評価する。
教科書	
参考書	
備考	製作に必要な図面資料、模型材料を配布する。 欠席の際は後日担当者から直接プリント等を受け取り、自主学习し次回の授業に備えること。

科目名			担当者	
CG入門			早坂 直人	常勤
配当年次	授業形式	授業時間	単位	実務経験等
1年次・前期	演習	30時間	必修 1単位	無

授業の目的と到達目標	画像編集ソフトGIMP（ギンプ）を使用し画像(写真)の編集を修得する。 建築設計業界で必要とされる、パース（完成予想図）のデジタル処理ができるようにする。 ・画像編集を学び、補正、合成を修得できる。
授業の概要 達成課題	GIMPの画面構成から説明を始め、レイヤー、選択方法、切り抜く、合成と説明していきます。
【各回のテーマ・内容・授業方法】	
第1週 GIMPの基本操作① 第2週 GIMPの基本操作② 第3週 GIMPの基本操作③ 第4週 選択の仕方① 第5週 選択の仕方② 第6週 写真を切り抜く、スタンプツール、ソラのビルの写真の合成 第7週 演習 画像の合成① 第8週 演習 画像の合成② 第9週 画面のハードコピーと合成 第10週 フィルタの使い方 第11週 住宅完成予想図の合成① 第12週 住宅完成予想図の合成② 第13週 住宅完成予想図の合成③ 第14週 住宅完成予想図の合成④ 第15週 効果文字の作成	
成績評価方法	課題作品で評価する。
教科書	すぐわかる GIMPではじめるフォトタッチ講座 改訂版（アスキー 編）
参考書	
備考	パソコンの不具合については速やかに申し出てください。 操作方法に関して不明な点は質問してください。

科目名			担当者	
プレゼンテーション演習 I			佐々木 賢志	常勤
配当年次	授業形式	授業時間	単位	実務経験等
2年次・前期	演習	30時間	必修 1単位	無

授業の目的と到達目標	既存の建物を調査し、第三者にその建物をわかりやすく説明できることを目標にする。 <ul style="list-style-type: none"> ・ マイクロソフトパワーポイントの操作を習得できる。 ・ 建築設計計画を第三者に伝えられるプレゼンテ能力が身につく
授業の概要 達成課題	パワーポイントにおいて、各自自由に設定する建物を調査しプレゼンテーションデータをまとめる。 DTPソフトを使いプレゼンテーションボードをまとめる基本を学ぶ。
【各回のテーマ・内容・授業方法】	
第1週	パワーポイントの概要の説明
第2週	有名建築物のプレゼンテーションの作成
第3週	↓
第4週	↓
第5週	↓
第6週	↓
第7週	プレゼンテーションボードの作成
第8週	↓
第9週	↓
第10週	↓
第11週	↓
第12週	手書きパースの作成
第13週	↓
第14週	↓
第15週	↓
成績評価方法	課題作品で評価する。
教科書	
参考書	授業で配布する。
備考	

科目名			担当者	
プレゼンテーション演習Ⅱ			佐々木 賢志	常勤
配当年次	授業形式	授業時間	単位	実務経験等
2年次・後期	演習	30時間	必修 1単位	無

授業の目的 と 到達目標	設計製図IVBで行う卒業制作展の作品製作を目的とする。 ・ 建築設計計画を第三者に伝えられるプレゼンテ能力が身につく
授業の概要 達成課題	設計製図IVBで行う、教員の指導のもと、デジタルデータに変換しプレゼンテーションデータを作成していきます。
【各回のテーマ・内容・授業方法】	
第1週 卒業制作テーマの検討 第2週 ↓ 第3週 ↓ 第4週 計画案作図 第5週 ↓ 第6週 ↓ 第7週 ↓ 第8週 中間発表用プレゼンボードまとめ① 第9週 中間発表用プレゼンボードまとめ② 第10週 計画案作図 第11週 ↓ 第12週 ↓ 第13週 ↓ 第14週 後期末発表会用プレゼンボードまとめ① 第15週 後期末発表会用プレゼンボードまとめ②	
成績評価方法	課題作品で評価する。
教科書	
参考書	授業で配布するがあります。
備考	

科目名			担当者	
人間工学			村上 良太	非常勤
配当年次	授業形式	授業時間	単位	実務経験等
1 年次・前期	講義	30 時間	必修 2 単位	無

授業の目的 と 到達目標	人間とその生活環境との関係を、人間の形態学的・生理学的・心理学的・行動学的側面から考察して、人間に適した製品・生活環境を設計できる知識を身につける。
授業の概要 達成課題	人間工学の目的、歴史、意義を理解する。 人間の基本的な形状の知識と人間工学との関わりを学ぶ。 人間の行動特性を理解し、それを生活環境の計画へ応用できる力を養う。
【各回のテーマ・内容・授業方法】	
第 1 週 ガイダンス 人間工学とは 第 2 週 人間工学の基礎 (1) 人体寸法 第 3 週 人間工学の基礎 (2) 標準偏差 第 4 週 人間工学の基礎 (3) 人体寸法、質量の略算値 第 5 週 人間工学の基礎 (4) 姿勢 第 6 週 人間工学の基礎 (5) 作業域 第 7 週 人間工学の基礎 (6) つかむ 第 8 週 人間の行動特性 (1) ポピュレーションステレオタイプ 第 9 週 人間の行動特性 (2) パーソナルスペース 第 10 週 インテリア計画への応用 第 11 週 椅子 第 12 週 机 第 13 週 寝具 第 14 週 作業台 第 15 週 まとめ	
成績評価方法	各章末テストと期末試験にて評価する。
教科書	オリジナルプリント
参考書	
備考	授業ごとにプリントを配布します。

科目名			担当者	
材料実験			齊藤 彰	非常勤
配当年次	授業形式	授業時間	単位	実務経験等
1年次・前期	実験	45時間	必修 1.5単位	無

授業の目的と到達目標	<p>土木構造物で使用される材料のコンクリートと鉄筋の特徴を理解する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ コンクリートの配合による特徴を説明できる。 ・ コンクリートの破壊について理解できる。 ・ 鉄筋の破壊について理解できる。
授業の概要達成課題	<p>鉄筋コンクリートを構成するコンクリートと鉄筋の特徴について解説する。コンクリートの配合による変化について実験を通じて説明を加える。</p> <p>コンクリートと鉄筋を破壊試験を行なってそれぞれの特徴について考察する。</p>

【各回のテーマ・内容・授業方法】

- 第1週 ガイダンス
- 第2週 木材の圧縮強度 (1)
- 第3週 木材の圧縮強度 (2)
- 第4週 コンクリートの配合設計 (1)
- 第5週 コンクリートの配合設計 (2)
- 第6週 コンクリート配合演習 (1)
- 第7週 コンクリート配合演習 (2)
- 第8週 コンクリートの試験練り (1)
- 第9週 コンクリートの試験練り (2)
- 第10週 鉄筋引張り試験 (1)
- 第11週 鉄筋引張り試験 (2)
- 第12週 コンクリートの圧縮強度 (1)
- 第13週 コンクリートの圧縮強度 (2)
- 第14週 コンクリートの非破壊検査
- 第15週 総合まとめ

成績評価方法	結果レポートによって評価する。
教科書	材料実験テキスト (東北文化学園専門学校編集)
参考書	適時プリントを配布する。
備考	実験は積極的に作業を行い機器類の使用法も学ぶ。

科目名			担当者	
測量学 I			佐竹 正行	常勤
配当年次	授業形式	授業時間	単位	実務経験等
1 年次・後期	演習	4 5 時間	必修 1. 5 単位	無

授業の目的と到達目標	測量に必用な基礎事項と様々な測量方法の技術と特徴を理解できる。 測量で行なわれている測量方法の理論を説明することができる。 レベル機材の特徴を理解しそれを自由に扱うことができる。
授業の概要 達成課題	測量実習と関連付けを行ないながら内業（計算と設計）についての理論を解説する。 理論の理解のために計算と設計の演習を行う。
【各回のテーマ・内容・授業方法】	
第 1 週 測量学入門 第 2 週 測量機器の概要 第 3 週 基本測量（1） 第 4 週 基本測量（2） 第 5 週 水準測量（1） 第 6 週 水準測量（2） 第 7 週 水準測量・・・昇降式（1） 第 8 週 水準測量・・・昇降式（2） 第 9 週 水準測量・・・昇降式（3） 第 10 週 水準測量・・・器高式（1） 第 11 週 水準測量・・・器高式（2） 第 12 週 水準測量・・・器高式（3） 第 13 週 水準測量・・・まとめ 第 14 週 基本測量・・・まとめ 第 15 週 測量学まとめ	
成績評価方法	実習評価および定期試験によって評価する。
教科書	教科書は使用しない。
参考書	適時にプリントを配布
備考	建築で必要になる測量の知識を身に付けるための実習を中心にした授業とする。

科目名			担当者	
測量学Ⅱ			佐竹 正行	常勤
配当年次	授業形式	授業時間	単位	実務経験等
2年次・後期	講義	45時間	必修 2単位	無

授業の目的と到達目標	基本測量に使用するトータルステーションの据付作業を身につける。 トータルステーション機材の特徴を理解しそれを自由に扱うことができる。
授業の概要 達成課題	トータルステーション機材の使用法の解説と各種の測量方法について実習を通じて習得する。各種機材を自由に扱えるように十分に実習を行なう。
【各回のテーマ・内容・授業方法】	
第1週 三角測量(1) 第2週 三角測量(2) 第3週 三角測量(3) 第4週 三角測量(4) 第5週 三角測量(5) 第6週 三角測量(6) 第7週 地形測量(1) 第8週 地形測量(2) 第9週 地形測量(3) 第10週 地形測量(4) 第11週 地形測量(5) 第12週 地図編集(1) 第13週 地図編集(2) 第14週 地図編集(3) 第15週 まとめ	
成績評価方法	期末試験にて評価する。
教科書	「測量入門」実教出版
参考書	
備考	私語厳禁、携帯電話はマナーモードにする、教員入室前に着席、授業で使用する教科書等は授業前に準備が完了するなど、大人の常識、社会の常識で授業に臨むこと。

科目名			担当者	
土木施工			佐竹 正行	常勤
配当年次	授業形式	授業時間	単位	実務経験等
2年次・後期	講義	30時間	必修 2単位	無

授業の目的と到達目標	土木施工に関する基礎知識と技術について理解して実際の現場で活用できる能力を養う <ul style="list-style-type: none"> 土木工事の安全管理や環境保護対策について理解できる。 土木工事における近隣対策を実際に行うことができるようになる。 各種建設機械の特徴を説明することができる。
授業の概要 達成課題	土木工事における各種基礎技術や基礎知識について解説する。工事の施工段階において必要な工程・安全・品質管理を総合的に解説する。
【各回のテーマ・内容・授業方法】	
第1週 河川工事 第2週 砂防工事 第3週 道路舗装 第4週 ダム 第5週 トンネル 第6週 海岸・港湾 第7週 鉄道 第8週 地下構造物 第9週 施工計画：仮設計画 第10週 施工計画：施工計画 第11週 工程管理：工程管理プログラム 第12週 工程管理：工程図表 第13週 安全管理：労働災害と労働安全衛生法 第14週 安全管理：建設機械の安全対策 第15週 品質管理：材料搬入計画	
成績評価方法	期末試験にて評価する。
教科書	「2級土木施工管理技士 重点テキスト」市ヶ谷出版
参考書	
備考	私語厳禁、携帯電話はマナーモードにする、教員入室前に着席、授業で使用する教科書等は授業前に準備が完了するなど、大人の常識、社会の常識で授業に臨むこと。

科目名			担当者	
土質工学			佐竹 正行	常勤
配当年次	授業形式	授業時間	単位	実務経験等
2年次・後期	講義	30時間	必修 2単位	無

授業の目的と到達目標	<p>安定な構造物を設計・施工するために地盤を形成する土の諸性質を理解する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各種の土の性質及び特性を理解して説明できる。 ・土圧計算をして簡単な構造物の基礎を設計することができる。
授業の概要達成課題	<p>土の性質・特性について詳しく解説を行い土圧計算等の計算を通して土の評価法を考察する。専門基礎学力の学習として練習問題を取り入れ解説を加える。</p>
<p>【各回のテーマ・内容・授業方法】</p> <p>第1週 ガイダンス 第2週 土の基本性質 第3週 土の性質(1) 第4週 土の性質(2) 第5週 土の分類 第6週 土の締め固め特性 第7週 土の透水性(1) 第8週 土の透水性(2) 第9週 土の有効応力 第10週 土の圧縮特性 第11週 圧密(1) 第12週 圧密(2) 第13週 圧密(3) 第14週 圧密沈下の評価 第15週 まとめ</p>	
成績評価方法	<p>期末試験にて評価する。</p>
教科書	<p>「絵とき土質工学 改訂2版」オーム社</p>
参考書	
備考	<p>私語厳禁、携帯電話はマナーモードにする、教員入室前に着席、授業で使用する教科書等は授業前に準備が完了するなど、大人の常識、社会の常識で授業に臨むこと。</p>

科目名			担当者	
水理学			佐竹 正行	常勤
配当年次	授業形式	授業時間	単位	実務経験等
2年次・後期	講義	30時間	必修 2単位	無

授業の目的と到達目標	建設業で必要な治水・利水についての基本事項を理解する。 <ul style="list-style-type: none"> 水の性質と特徴を説明することができる。 管水路・開水路の特徴を理解する。
授業の概要 達成課題	基本的な水の性質や流水・静水圧・動水圧についての解説を行い水理の知識を身につける。 管工事施工管理技士試験に必要な知識解説を行なう。
【各回のテーマ・内容・授業方法】	
第1週 水について (概要) 第2週 単位について 第3週 静水圧・・・水深と水圧 第4週 静水圧・・・マンメータ 第5週 パスカルの原理 第6週 水圧機 第7週 流水の性質 第8週 流水の性質・・・流速と流量 第9週 ベルヌーイの定理 (1) 第10週 ベルヌーイの定理 (2) 第11週 動水勾配 第12週 損失水頭 第13週 摩擦損失水頭 第14週 ダルシーワイズバッハの式 第15週 まとめ	
成績評価方法	期末試験にて評価する。
教科書	「水理学の基礎 第2版」技報堂出版
参考書	
備考	私語厳禁、携帯電話はマナーモードにする、教員入室前に着席、授業で使用する教科書等は授業前に準備が完了するなど、大人の常識、社会の常識で授業に臨むこと。

科目名			担当者	
企業・施設等の実習			佐々木 賢志 佐竹 正行 早坂 直人	常勤
配当年次	授業形式	授業時間	単位	実務経験等
1年次・後期	実習	90時間	必修 2単位	無

授業の目的 と 到達目標	建築設計事務所に通い、一級建築士の指導のもと設計の実践の場において、その補助作業を行う。企業・施設等の実習は講義とは違い社会人としての技術の実践の場である。その意味で単なる知識ではなくそれらを生かす技能を習得する。
授業の概要 達成課題	社会人としての最低限のマナーを習得する。さらに設計事務所及びその作業内容の具体的な内容を実感として学びとる。具体的には設計事務所の役割、倫理観、法対応、設計図面の作り方、設計の進展のさせ方、などである。

【各回のテーマ・内容・授業方法】

- 第1週 実習現場のガイダンス、建築士の指導のもと図面等の作成
 第2週 建築士の指導のもと図面等の作成
 第3週 建築士の指導のもと図面等の作成
 第4週 建築士の指導のもと図面等の作成
 第5週 建築士の指導のもと図面等の作成
 第6週 建築士の指導のもと図面等の作成
 第7週 建築士の指導のもと図面等の作成
 第8週 建築士の指導のもと図面等の作成
 第9週 建築士の指導のもと図面等の作成
 第10週 建築士の指導のもと図面等の作成
 第11週 建築士の指導のもと図面等の作成
 第12週 建築士の指導のもと図面等の作成
 第13週 建築士の指導のもと図面等の作成
 第14週 建築士の指導のもと図面等の作成
 第15週 建築士の指導のもと図面等の作成、事務所責任者からの評価

成績評価方法	実習実技により評価する。
教科書	
参考書	
備考	

科目名			担当者	
資格対策講座（2級建築施工）			佐竹 正行 氏家 真史	常勤 非常勤
配当年次	授業形式	授業時間	単位	実務経験等
2年次・後期	講義	30時間	選択 2単位	無

授業の目的 と 到達目標	2級建築施工管理技術検定（学科）の合格を目標とする。
授業の概要 達成課題	各担当が分野ごとに講義を行います。 在学中は学科のみが受験可能になります。
【各回のテーマ・内容・授業方法】	
第1週 インTRODAGT（施工管理技士について） 第2週 一般構造 第3週 構造力学1 第4週 構造力学2 第5週 建築材料 第6週 機械、電気設備 第7週 土工事、仮設工事 第8週 駆体工事1 第9週 駆体工事2 第10週 駆体工事3 第11週 仕上げ工事1 第12週 仕上げ工事2 第13週 仕上げ工事3 第14週 施工管理法1（施工計画、工程管理、品質管理） 第15週 施工管理法2（施工計画、工程管理、品質管理）	
成績評価方法	本試験に合格した学生のみ評価する。
教科書	
参考書	授業で配布する。
備考	

科目名			担当者	
資格対策講座(福祉住環境)			今野 恵子	非常勤
配当年次	授業形式	授業時間	単位	実務経験等
2年次・後期	講義	30時間	選択 2単位	無

授業の目的と到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・高齢社会という社会背景を踏まえ、住環境整備に対する知識と技術の習得を目的とする。 ・福祉と医療と住環境がどのように関連しているかに重点を置く。 ・福祉住環境コーディネーターとしての知識の習得ができる。
授業の概要 達成課題	福祉住環境コーディネーター2級合格を目標とする。
【各回のテーマ・内容・授業方法】	
第1週 ガイダンス 車椅子実習 第2週 福祉用具実習その1(電動車椅子、各種リフト、など) 第3週 福祉用具実習その2(階段昇降機、福祉車両 など) 第4週 校外学習(萩の郷) 第5週 校外学習(ユニバーサルデザイン見学) 第6週 検定対策① 第7週 検定対策② 第8週 検定対策③ 第9週 検定対策④ 第10週 検定対策⑤ 第11週 検定対策⑥ 第12週 模擬試験① 第13週 模擬試験② 第14週 模擬試験③ 第15週 試験解説	
成績評価方法	本試験に合格した学生のみ評価する。
教科書	新版 福祉住環境コーディネーター検定試験3級公式テキスト(東京商工会議所) 新版 福祉住環境コーディネーター検定試験2級公式テキスト(東京商工会議所)
参考書	授業で配布する。
備考	

科目名			担当者	
資格対策講座(CAD検定)			早坂 直人	常勤
配当年次	授業形式	授業時間	単位	実務経験等
2年次・後期	講義	30時間	選択 2単位	無

授業の目的 と 到達目標	建築CAD検定2級・3級合格を目標とする。
授業の概要 達成課題	CADシステムの基本的な知識と仕事の現場での利用方法を身につける。 PCの基本的知識の向上。
【各回のテーマ・内容・授業方法】	
第1週 ガイダンス 第2週 CADシステムの知識と利用 第3週 ↓ 第4週 ↓ 第5週 CADシステムのプラットフォーム 第6週 ↓ 第7週 ↓ 第8週 CADシステムの関連知識 第9週 ↓ 第10週 製図の知識 第11週 図形 第12週 過去問題 第13週 ↓ 第14週 ↓ 第15週 ↓	
成績評価方法	検定試験に合格した学生のみ評価する。
教科書	オリジナルプリント、過去問題プリントを配布します。
参考書	
備考	

科目名			担当者	
資格対策講座（2級土木施工）			佐竹 正行	常勤
配当年次	授業形式	授業時間	単位	実務経験等
2年次・後期	講義	30時間	選択 2単位	無

授業の目的と到達目標	2級土木施工管理技術検定試験には過去の重要な要素について幅広く出題される。このため過去の問題を理解し必要な知識を身につけることができる。 ・ 以前から出題傾向が多い問題について計算・説明をすることができる。
授業の概要 達成課題	過去の2級土木施工管理技術検定試験に出題された問題の解説を行う。練習問題を繰り返して解くことにより検定試験の合格を目指す。
【各回のテーマ・内容・授業方法】	
第1週 既出問題の解き方と解説（1） 第2週 既出問題の解き方と解説（2） 第3週 連取問題及び解説（1） 第4週 練習問題及び解説（2） 第5週 既出問題の解き方と解説（3） 第6週 既出問題の解き方と解説（4） 第7週 練習問題及び解説（3） 第8週 練習問題及び解説（4） 第9週 既出問題の解き方と解説（5） 第10週 既出問題の解き方と解説（6） 第11週 練習問題及び解説（5） 第12週 練習問題及び解説（6） 第13週 既出問題の解き方と解説（7） 第14週 総合問題（1） 第15週 総合問題（2）	
成績評価方法	本試験に合格した学生のみ評価する。
教科書	使用しない。
参考書	適時にプリント配布
備考	

科目名			担当者	
資格対策講座（2級管工事）			佐竹 正行	常勤
配当年次	授業形式	授業時間	単位	実務経験等
2年次・前期	講義	30時間	選択 2単位	無

授業の目的と到達目標	2級管施工管理技術検定試験には過去の重要な要素について幅広く出題される。このため過去の問題を理解し必要な知識を身につけることができる。 ・ 以前から出題傾向が多い問題について計算・説明をすることができる。
授業の概要 達成課題	過去の2級管施工管理技術検定試験に出題された問題の解説を行う。練習問題を繰り返して解くことにより検定試験の合格を目指す。
【各回のテーマ・内容・授業方法】	
第1週 既出問題の解き方と解説（1） 第2週 既出問題の解き方と解説（2） 第3週 連取問題及び解説（1） 第4週 練習問題及び解説（2） 第5週 既出問題の解き方と解説（3） 第6週 既出問題の解き方と解説（4） 第7週 練習問題及び解説（3） 第8週 練習問題及び解説（4） 第9週 既出問題の解き方と解説（5） 第10週 既出問題の解き方と解説（6） 第11週 練習問題及び解説（5） 第12週 練習問題及び解説（6） 第13週 既出問題の解き方と解説（7） 第14週 総合問題（1） 第15週 総合問題（2）	
成績評価方法	本試験に合格した学生のみ評価する。
教科書	使用しない。
参考書	適時にプリント配布
備考	

科目名			担当者	
建築士講座			佐々木 賢志	常勤
配当年次	授業形式	授業時間	単位	実務経験等
2年次・後期	講義	60時間	選択 4単位	無

授業の目的と到達目標	・卒業後に受験資格が得られる、二級建築士の「学科の試験」の対策を実施する。
授業の概要 達成課題	・二級建築士の「学科の試験」の問題を通じて、傾向と対策を行う
【各回のテーマ・内容・授業方法】	
第1週 学科Ⅰ 建築計画 建築計画原論 第2週 学科Ⅰ 建築計画 建築計画各論 第3週 学科Ⅰ 建築計画 建築設備 第4週 学科Ⅱ 建築法規 建築基準法・総則 第5週 学科Ⅱ 建築法規 建築基準法・一般構造等 第6週 学科Ⅱ 建築法規 建築基準法・構造強度 第7週 学科Ⅱ 建築法規 建築基準法・防火関係 第8週 学科Ⅱ 建築法規 建築基準法・都市計画区域等の制限、雑則等 第9週 学科Ⅲ 建築構造 構造力学 構造設計 第10週 学科Ⅲ 建築構造 構造力学 各種構造 第11週 学科Ⅲ 建築構造 構造力学 建築材料 第12週 学科Ⅳ 建築施工 施工管理 第13週 学科Ⅳ 建築施工 各部工事① 第14週 学科Ⅳ 建築施工 各部工事② 第15週 学科Ⅳ 建築施工 用語	
成績評価方法	レポートで評価する。
教科書	
参考書	授業で配布する。
備考	

